青苗岬めぐりの道

どうなん・追分シーニックバイウェイ

自然と景観の道　奥尻町

どうなんフットパス ROAD MAP

平成5年7月の震災で大きな被害を受けた青苗岬をめぐります。磯舟が並ぶ海岸とイカ釣り漁船が停泊する漁港…そして朝陽も夕陽も楽しめる南端の岬が見どころのコース。津波館に立ち寄れば、震災当時と復興後の新旧市街地を見比べることができます。復興までの軌跡をぜひご覧ください。青苗漁港では、帰港したばかりの漁船に遭遇したら、運よく新鮮とれたてイカをゲットできるかも?!海岸では漁師道具を間近で見ることや漁師と交流ができるかも♪浜言葉を間近で聞けるチャンスです!

■時　　期／4月～11月
■歩行距離／約3.5km
■所要時間／約2時間
■ガイド料金／10名様以上　1名500円
（10名様以下は要相談）
■申込方法／下記までお問い合わせください。
■問合せ先／奥尻島観光協会
TEL.01397-2-3456

■コース注意／日陰が無く直射日光にさらされます。熱中症・日焼けの対策を怠らないこと。海岸・漁港の周辺には、漁具（網・縄・針など）が置かれています。十分に注意してください。

うにまる

基本コース

青苗砂丘遺跡 → 青苗遺跡 → 青苗貝塚 → 船入澗 → 奥尻島津波館 → 徳洋記念碑 → 青苗漁港 → 望海橋

❷青苗遺跡

およそ8000年～1000年前まで、幅広い年代の遺物が出土している。なかでも、擦文時代（約1300～1000年前）の墓地の副葬品として発見されたヒスイの丁字頭勾玉は、北海道・東北では唯一の出土である。全国的に見ても最大級の大きさで、古代では勾玉の大きさで権力や権威を誇示しており、所有者が島の実力者であるとともに、本州との交易で大きな富を手にしていたことが想像できる。発掘された勾玉が津波館で展示されている。

❺ドーム型歩道

冬場の降雪凍結を避ける屋根付きの歩道。地震・津波の際に、いち早く高台へ移動するための避難路でもある。

❻船入澗

磯舟が並ぶ。ウニやアワビの漁具（タモ）も間近で見ることができる。使い方は島の漁師が教えてくれるはず。

❼津波看板

この地点に12.3mの津波が到達したことを示す看板。島内にはこの他に10箇所設置されている。

❽寄り道

市街地での寄り道はご自由に。このルートの途中には、奥尻島の開拓に従事し島人から信頼され慕われた岡本三郎（福岡藩士）の墓がある。

❾青苗岬灯台

震災時に横倒しになった姿が記憶に残る。

⓫奥尻島津波館

北海道南西沖地震の記録と記憶が集められた施設。ぜひ、立ち寄っていただきたい。
●開館期間／4月中旬～11月末
●入館時間／9時～17時
●料金／大人500円・小中高170円

❶青苗砂丘遺跡

北海道指定史跡。サハリンからオホーツク海沿岸が活動範囲と考えられてきた海洋民オホーツク人が、はるか南方の奥尻島で生活していたことを伝える遺跡（約1300年前）で、北日本の古代史を書き換える大発見となった。

❸青苗貝塚

約1000年前の遺跡で、貝塚としては極めて新しく珍しい。台地の上にあるのは、貝塚がゴミ捨て場などではなく、食べ物や道具を供養し葬る場所だったため。アワビの貝殻が圧倒的に多い。平安時代の書物には、北方の産物として干しアワビが紹介されており、交易活動によって奥尻島から運ばれたものかも知れない。

❹青苗言代主神社

1831（天保2）年の創立。震災時に社殿が焼失したが御神体は難を逃れた。伊勢神宮の式年遷宮（20年ごとに本殿などを建て直す儀式）の解体材を活用して再建。

⓯望海橋

青苗港に設置された緊急避難用高台（人工地盤）。高さ6.6m・幅164m、65本の鉄筋コンクリート柱で支えられている。漁港ではアワビ養殖をおこなっている。

⓮青苗漁港

奥尻島で最大の漁港。もっとも多いイカ釣り漁船は、午後3時ごろ出港し翌朝4時ごろに帰港する。

⓭徳洋記念碑

高さ16.7m。1931（昭和6）年に建立された記念碑。津波にも倒れるこ、は字文の」徳美々洋「。たっかながと1880（明治13）年に青苗岬沖で座礁したイギリス軍艦を救助した島人たちを讃えた言葉。

⓪時空翔

1993（平成5）年7月12日午後10時17分に発生した北海道南西沖地震の慰霊碑。震源地の方角を向く。

⓬室津島

岬の南方4kmにある無人島。室津嶋神社があり、毎年7月に漁船の海上渡御・大漁祈願の神事がある。